

国・地域名

チリ

【更新】2021年6月

<p>人口・経済発展状況等</p> <p>〔参考：日本〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口：1億2,563万人 (2020年1月推計値、「人口推移」総務省統計局) ●実質GDP成長率：-4.6% (2020年度、内閣府) ●1人あたりGDP(名目):4万146ドル (2020年4月、IMF) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口 1,950 万人 ・ 実質GDP成長率 -5.8 % ・ 1人あたりのGDP(名目) 1万3,038 ドル ・ 為替レート 6.60 ペソ ・ 日本の直接投資額 67 億ドル ・ 進出日系企業数 105 社 ・ 在留邦人 1,641 人 ・ 訪日外客数 3,381 人 ・ 日本食レストラン数 379 店 	<ul style="list-style-type: none"> 2020年(推計値)、チリ中央銀行 2020年(推計値)、チリ中央銀行 2020年(推計値)、チリ中央銀行 2021年6月1日、チリ中央銀行(1日本円あたり) 2019年(ストック)、チリ中央銀行 外務省「海外進出日系企業拠点数調査」令和元年版 外務省「海外在留邦人数調査統計」令和3年(2021年)版 2020年、日本政府観光局(JNTO) 2021年6月1日、サンティアゴ市内、Tripadvisor
<p>日本からの農林水産物輸出状況 (2020年/財務省貿易統計よりジェットロ算出)</p>	<p>21位 31億円 うち農産物27億円(86.3%)、林産物1億円(3.8%)、水産物3億円(9.9%)</p> <p>輸出額の多い品目：魚油(肝油除く)、播種用の種等、ラノリン、醤油、アルコール飲料</p>	
<p>味覚、嗜好上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肉食が中心(年間89kg/人)で、パンの消費量は南米で最大(年間86.0kg/人)である。(2013年チリ農業省農業政策・調査局：ODEPA) ・ 食には保守的で、水産物に恵まれているものの、魚介類の消費は(年間22kg/人)と多くない。(2013年チリ漁業協会：SONAPESCA) ・ 近年、健康志向の高まりから、2015年の健康食品・飲料の売上は30億ドル超と、過去5年間で約40%増加している。(ユーロモニター) ・ 強めの塩味・甘味など、はっきりとした味を好む。 	
<p>制度的制約</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの肥満防止のため、2016年6月、熱量(カロリー)やナトリウム、砂糖、飽和脂肪の含有量が多い食品・飲料に対する警告ラベル表示を義務付ける規則が発効し、警告ラベルの付いている商品は、学校内での販売が禁止されている。また、2014年から砂糖の含有量の多い飲料(15g超/240ml)に対し、18%の追加税が賦課されている。 <p><動物検疫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛肉：輸出解禁に向けて協議中。 <p><植物防疫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑茶、精米は輸出が可能だが、その他の品目は検疫条件が設定されていないため輸出できないか、または不明。 	
<p>商流・物流・商習慣</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマーケットは、ウォルマート(米系)、センコスッド(地場)、SMU(地場)、トットゥス(地場)の4社のシェアが90%を超える(2014年9月)。 ・ 首都サンティアゴの大型スーパーマーケットで購入可能なアジア食材(ほとんどが米国産)は、しょうゆ、照り焼きソース、寿司用のり、カニカマ、粉わさび、みりん、米酢、パン粉、インスタントラーメン、餃子・春巻き、豆腐、しいたけ、大根、チンゲン菜、しょうが、もやし、黒ゴマ、緑茶など。巻きす、箸などの日本食関連製品も売られている。 ・ そのほかの日本食材は、韓国系、中国系の食材店にて主に販売している。 	
<p>Eコマースの概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内最大級のEコマースイベント(サイバーデー)の売上高は、2020年9月に過去最高の3億6,800万ドル(前年比42.6%増)を記録。 ・ 新型コロナウイルスによる影響を受け、2020年の国内のネットショッピング利用率は、2019年の67%から78%まで増加(サンティアゴ商工会議所)。 ・ 小売り大手(ファラベラ、ソディマックなど)のECサイトに加え、メルカドリブレなどのマーケットプレイスが主要プレイヤー。 	
<p>外食・小売等の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗数が多いペルー料理、寿司、イタリアン、スペイン料理、中華に加え、フレンチ、メキシカン、インド料理、韓国料理などのレストランも点在。 ・ 店舗での接客については、新型コロナウイルスの感染防止を目的として政府が課す外出制限の影響を受けることから、「Uber Eats」や「Rappi」などのアプリケーションを通じたデリバリーサービスを新たに導入する店舗が急増(2020年)。 	
<p>日本食普及状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010~13年頃に日系インスタントラーメン「マルちゃん」が爆発的な人気となったことから、現在、味の素、日清食品、マギー他、自社ブランドの即席めん・カップめんを輸入販売しているチリ企業(カロッシ、トラベルソ、トットス、リーデル等)もある。 ・ 寿司はカリフォルニアロールのイメージが強く、サーモンの裏巻きや、パン粉をつけて揚げたロール寿司なども人気がある。日系レストランも増加し、創作、現地化が進んでいる。寿司以外の日本食は、まだまだ知られていない。 ・ 2017年9月、首都サンティアゴにチリ初のラーメン専門店がオープンしたのを皮切りに、近年店舗数が増傾向。 ・ 2018年6月、ワインショップLa Vinotecaで日本酒が取り扱われるようになった。 	